

袖ヶ浦市郷土博物館開館40周年記念企画展

ふじさん



10月1日(土)

~

12月18日(日)

おそ
畏れ

うやま
敬い

あこが
憧れ

関連講座 第164回袖ヶ浦学

「房総の富士講と富士塚」

講師 高橋 克氏
(江戸川大学教授)

11月5日(土)13:30~

会場 根形公民館視聴覚室
(袖ヶ浦市下新田1277)

開館時間 9:00~17:00

※入館は16:30まで

休館日 毎週月曜日・祝日の翌日

※月曜日が祝日の場合は
開館し、翌日休館

袖ヶ浦市郷土博物館

〒299-0255 千葉県袖ヶ浦市下新田1133 (袖ヶ浦公園内)

TEL 0438-63-0811 FAX 0438-63-3693 E-Mail:sode65@city.sodegaura.chiba.jp

蔵波八幡神社所蔵
「富士山図」

入場無料

どうして私たちは、こんなに富士山が好きなんだろう

西上総の人びとにとって、富士山はとても身近な存在です。朝・昼・夕暮れ、雄大で美しい姿を見せる富士山に、人びとは畏敬と憧れをこめて、心の支えや創作の糧としてきました。今回の企画展は開館40周年を記念して、博物館ボランティアである市民学芸員と協働で、「それぞれが思う」富士山を追及しました。市民学芸員たちが見て、歩いて、考えて、たどりついた「いろいろな富士山」をご覧ください。



I 富士山の謎に挑む

葛飾北斎の代表作の1つ「神奈川沖浪裏」これはどこの風景？という謎に、市民学芸員が挑戦しました。結果は見てのお楽しみ！
葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」※パネル展示
(千葉市美術館所蔵・画像提供:千葉市美術館)



「五大力船図」(迦具土神社所蔵)



富士山牛王 個人蔵(当館寄託)

II 畏れる一神なる山への祈りー

富士山は、有史以来何度も噴火をくり返してきた火山です。富士山信仰のはじまりは、荒ぶる神を鎮めるための祈りでした。

ここでは、噴火の脅威や原始からの富士山信仰、富士山にまつわる伝説や物語について考えます。

【主な展示資料】

『伊能景利日記』(個人蔵・伊能忠敬記念館寄託)、伊能景利収集の火山毛等(伊能忠敬記念館所蔵)、岩井遺跡出土石棒(富津市教育委員会所蔵)、「富士巻狩図」(率土神社所蔵)



『富士山道中』(当館所蔵)
弘化2年(1845)



市内百目木の富士塚

III 敬うー富士を目指す人びとー

富士山が遥拝から登拝の対象となったのは平安時代後期のこと。その後、15世紀には修験者に引率された庶民の登山も盛んになり、16世紀には民間信仰である富士講が確立されました。富士講では積み立てをして、くじ引きなどにより代表者が登拝する代参で、多くの人が富士登山の夢をかなえました。また一方で、登拝できない村人のため等に、富士塚を建立することも行われました。

ここでは、富士講による富士参詣のようすや富士山を信仰する人びとの思いを、たくさんの資料から読み解きます。

【主な展示資料】行衣・杖(館山市立博物館所蔵)、『富士代参番圖帳』、『富士講社決算簿』(鴨川市郷土資料館所蔵)、『富士山日記』(個人蔵・千葉県文書館寄託)、『富士山道中』(当館所蔵)、『富士山牛王』(個人蔵・当館寄託)、『富士山図』(蔵波八幡神社所蔵)



歌川広重『不二三十六景 上総天神山海岸』
(木更津市郷土博物館金のすず所蔵)

IV 憧れるー富士への思いー

富士山は、その美しさや唯一無二の存在感から、古来より多くの芸術作品等にその姿を刻まれてきました。

ここでは、富士山の描かれた作品や歌などから、人びとの心に映った富士山の姿を探ります。

【主な展示資料】

歌川広重「富士三十六景上総黒戸の浦」他(木更津市郷土博物館金のすず所蔵)、歌川広重「富士二十図」複製(菱川師宣記念館所蔵)



武志伊八郎信由「波に宝珠」※パネル展示
(行元寺所蔵・画像提供:いすみ市郷土資料館)

関連イベント

関連講座「房総の富士講と富士塚」

講師 高橋 克氏 (江戸川大学教授)

11月5日(土)13:30～ 定員40名 参加費100円

会場 根形公民館 視聴覚室

「内房の富士塚めぐり」バスツアー

11月10日(木)8:30～ 参加費あり(保険代等)

※講座とバスツアーは電話でお申込ください。受付開始10月1日

展示解説会 10月8日(土)、11月26日(土)、12月10日(土)

各回13:30～(申込不要)

アクセス

JR 内房線 袖ヶ浦駅から日東バス②乗場 平川行政センター・のぞみ野バスターミナル行「袖ヶ浦公園」下車

※土・日・祝日は東京ドイツ村行

東関東自動車道館山線 姉崎袖ヶ浦 IC から約 20 分
アクアライン連絡道 袖ヶ浦 IC から約 15 分